

## ◆◇◆ HI-DEC cafe かわら版 ◆◇◆

まえがき

今回は、新規入居者であるジーワン（株）の紹介、並びに（株）chromocenter、シンバイオシス（株）、オンコリスバイオファーマ（株）及び卒業企業のシーエステック（株）のトピックスを紹介致します。

### ○新規入居者「ジーワン（株）」

2021年8月からジーワン（株）が入居されました。

同社は、国立循環器病研究センターサイエンスカフェ内に開発拠点を持ち、医療機関、医薬品業界に特化したITソリューションを提供しています。

ハイデックではフレイル予防、心臓リハビリ等に活用できるデジタル医薬品の研究開発を行います。

今後、デジタルヘルス市場は急激に拡大することが想定されており、同社事業の早期達成に向けてIM室全体で協力して行きます。

◆医療機関：問診表や診療業務のIT化・アプリ化、治験や臨床試験の効率化を図るEDC（Electronic Data Capture）システムを開発・提供。

◆医薬品業界：システム・アプリ開発、デジタルコンテンツ・クリエイティブ制作。

ドクター、医療情報担当者（MR）、プロダクトマネージャー、安全性情報管理（PV）の様々な視点を持って取り組み、最適なマーケティングツールを提供。

◆研究開発：大学や医療機関と連携し、センサモジュールや通信モジュールを用いた新しいIoTデバイスの試作開発。

ジーワン（株）：<https://www.g-1.ne.jp/>

また、直近のトピックスとして、名古屋市立大学とCOVID-19感染防御行動につながる意思決定アプリを共同開発しました。

### ◆COVID-19感染防御行動につながる意思決定アプリ：

ユーザー現在地や移動予定地が感染集積地域かどうかを、プッシュ通知によるリスクアラートと共にアプリ上で示し、感染リスク回避行動をリマインドする機能を備えています。

全国や各都道府県の疫学情報を、専門家コメントを交えて、地図・時間の経過・感染者の年齢・性別という切り口で分かり易く示し、ユーザーの感染リスク回避行動を促します。

公開当初は東京、神奈川、千葉、埼玉、静岡、愛知、岐阜、滋賀の8都県に限定していますが、順次、情報提供地域を拡大していく予定です。

公開するアプリのプロトタイプはAndroid版ですが、iPhone版アプリのリリースも予定しています。

詳細は下記のURL及びAMEBA NEWSのURLをご覧ください。

<https://www.value-press.com/pressrelease/277195>

[https://abema.tv/video/episode/89-71\\_s10\\_p2100](https://abema.tv/video/episode/89-71_s10_p2100)

化学工業日報（8/17）掲載

## ○「(株) chromocenter」

こうべしんきんステップアップ投資事業有限責任組合を引受先とする第三者割当増資を実施し、同社の基幹事業である細胞事業を進展するための設備資金を調達しました (6/18)。

[http://chromocenter.com/wp-content/uploads/2021/06/release\\_20210618.pdf](http://chromocenter.com/wp-content/uploads/2021/06/release_20210618.pdf)

## ○「シンバイオシス (株)」

### ◆補助金獲得：

ものづくり・商業・サービス生産性向上促進補助金（菌液自動調整装置の開発による腸内フローラ移植菌液製造の自動化）及び事業再構築補助金が採択され、神戸での事業展開に活用される予定です。

<https://portal.monodukuri-hojo.jp/common/bunsho/ippan/6th/saitaku6ji.pdf>

### ◆一般財団法人腸内フローラ移植臨床研究会第五回学術大会開催(9/19)

同社で製造している超微細な泡を長期残存可能な「NanoGASR ウォーター」を溶媒とした菌液を用いた腸内フローラ移植が行われており、本学術大会では今まで積み重ねてきた臨床研究の成果（自閉スペクトラム症=ASD、潰瘍性大腸炎、過敏性腸症候群・腎疾患など）が発表予定です。

また、基調講演として大阪大学大学院 連合小児発達学研究所・副研究科長 分子生物遺伝学研究域教授 片山泰一先生から「自閉スペクトラム症の客観的検査法の有用性」についてご講演頂きます。

自閉スペクトラム症における腸内フローラ移植の有用性を計測機器によって客観的に検証する画期的な取り組みをルークス芦屋クリニック院長 城谷昌彦先生が発表いたします。

<https://fmt-japan.org/5736>

### <一口メモ：自閉スペクトラム症と腸内フローラ移植の現状>

自閉スペクトラム症は、患者数が増加しているにもかかわらず確たる治療法が確立されていません。

一方、自閉スペクトラム症の治療を目的とした腸内フローラ移植の研究がアメリカ アリゾナ大学で始まったのがきっかけとなり、FDA が治療効果を検証するための大規模研究をこの4月からスタートしました。

国内では、慶応義塾大学において自閉スペクトラム症の子供の便を調べる取り組みを始めたとの報道や、今年2月に福岡県大野城市の喜多村クリニック院長 喜多村 邦弘 先生によるオンラインセミナーで自閉スペクトラム症患者の症例報告と患者へのインタビューが公開されています。

[https://fmt-japan.org/patients/asd\\_check](https://fmt-japan.org/patients/asd_check)

一方、自閉スペクトラム症の治療で課題となっているのは、自閉スペクトラム症患者の感じ方や考え方を他者が理解する手段が乏しいことなどから、症状を評価する基準としては、保護者や療育者の主観的観察に頼っていることです。

このような課題を解決するため、大阪大学大学院 連合小児発達学研究所 片山泰一教授は、簡便で客観的な可視化ツールとしてGazefinder(ゲイズファインダー)を開発され、実際に大阪府下を中心に一部の市町村で、一歳半健診に導入されています。

腸内フローラ移植臨床研究会では、3年前から自閉スペクトラム症の子どもに対して腸内フローラ移植が行われすでに20症例以上の実績があります。

今までは、自閉スペクトラム症のお子さんが移植前後に言動の変化や便の状態、腸内フローラのバランスが変わることを指標として計測し、短期間で自閉スペクトラム症の子ども特有の行動やこだわりに変化があることを確認することが出来ました。

今回腸内フローラ移植による効果を定量的に評価する手段として片山先生たちが開発された「ゲイズファインダー」を用い、科学的な評価基準を構築し、症例数を増やし、今後自閉スペクトラム症の治療法として腸内フローラ移植の有用性を確認していく予定です。

#### ○「オンコリスバイオファーマ（株）」

鹿児島大学との研究で、新型コロナウイルス感染症治療薬 OBP-2011 が変異株「デルタ株」、「ベータ株」に対して有効なことを確認しました。

現在、来年上期までの臨床試験入りを目指して前臨床試験及び治験薬の GMP 製造を進めています。

化学工業日報（7/21）

#### ○「シーエステック（株）」

同社が得意とするレーザー加工の拠点として岐阜県羽島郡岐南町に新たに岐阜工場を開設しました。

引き続き、医療分野を含めたレーザー加工製品の事業拡大を目指します。

<https://www.cstec-jp.com/news/info/news20210730/>

あとがき

2年ぶりに高校野球が始まり、パラリンピックも開催準備が進められています。ただ、天候不順による野外スポーツへの影響や大雨被害が出ており、

地球温暖化を食い止めるための施策について、私たち一人一人が考えて行く必要があります。

今後もハイデックに関連するトピックスを「ハイデック カフェ かわら版」で報告して行きますので宜しくお願い申し上げます。

#### ○ハイデックでは新規入居者の募集を行っています。

詳しくは、神戸健康産業開発センターのホームページをご覧ください。

URL: <https://www.smrj.go.jp/incubation/hi-dec/>

（独）中小企業基盤整備機構 近畿本部

神戸健康産業開発センター IM室